



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1622 回例会 (2010-2011 年・第一例会) 平成 22 年 7 月 5 日(月)

19:00～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘
2. 国歌斉唱 「君が代」
3. ロータリーソング 「奉仕の理想」
4. お客様紹介
ガバナー補佐 塩路 良一様 (御坊 RC)
青少年交換学生 ティアゴ君
5. 出席報告
会員総数 69 名 出席者数 50 名
出席率 74.63% 前回修正出席率 81.16%

6. 会長スピーチ

会長 谷脇 良樹 君
皆様、こんばんは。今日から 2010 年-2011 年のスタートです。何からはじめてよいかわからない程の緊張ですが、よろしくこの一年、ご協力をお願いします。

本日は 2 組のガバナー補佐、御坊 RC の塩路様がお越し下

さっております。遠路、大変ご苦労さまでございます。交換留学生のティアゴ君も今夜が最後の夜間例会となります。君の笑顔をありがとう。

さて、海南東 RC の 36 代目の会長ということですが、チャーターメンバーをはじめ、先輩諸兄のご尽力と奉仕の理想のお陰で、今夜ここで、スピーチをしているところであります。とにかく次なる 37 年、38 年に向けての一里塚と言う気持ちで、よりよくバトンタッチができるよう頑張ります。実は 2 月に突然、椎間板ヘルニアとなり、以来、約 5 ヶ月以上もゴルフが遠ざかっております。先日の IDM の時にあるゴルフをするメンバーに丁度、会長の準備と一緒に頑張ってよかったのと違うかと言われました。どうも、うちのクラブのゴルフをする人は、チクチクとあまり気配り

なしに温かい激励をしてくれます。以前もある先輩会長が「遊び心を」と言われまして、どれもこれも温かい励ましの言葉として感謝しております。

RI 会長は「地域を育み、大陸をつなぐ」というテーマを発表しております。私は全てのロータリーの出発点は、この例会にあると理解しているものであります。米山梅吉氏はロータリーの例会は人生道場だといわれておりますが、たとえ、RI 会長といえどもそのスタートは、どこかのクラブの例会からであるはずで。何かの縁でロータリーに入った我々仲間は、このように机をならべて食事をして色々な話をして、そしてロータリーの原点である奉仕と親睦について実践していく場そのものなのです。

今年度、その一つ一つを語れば、長くなりますので、別の機会にゆっくりと話すことにしますが、最初に特にご協力を仰ぎたい部分の話を今夜させていただきます、初例会のスピーチとしたいと思います。

海南東 RC には 36 年の「らしさ」があります。今や 2640 地区では、その中核として揺ぎ無いところまで来ていると自負してもいいのではないかと思いますのは私一人でしょうか。でも、ロータリーも日進月歩しております。先の地区協議会で、時の村上ガバナーに野球で会員増強をしているクラブと暗に私どものクラブのことを 800 名の会員の中で言われました。

それは、反面、それだけ我が海南東 RC を意識している証拠であると私なりに解釈しておりますが、それに恥じることをないよう内部の充実、内容の高さ、濃さを求めて、折りしも先の規定審議会で決議採択された研修リーダーシップ委員会の設置と言うことと合致するべく研修委員会を設け、我がクラブの人的財産の平尾パストガバナーにそのリーダーを取ってもらい、素晴らしい人材の委員の方々を擁し、とりわけ入会年次の若いメンバーの皆様の参加と古いメンバーの貴重なロータリー体験と頭脳を惜しみなく発揮してもらおうべく、立案して、その機能を十分浸透してくれることをお願いするものです。

また、奉仕プロジェクトとして、職業、社会、国際、そして今回の新世代と言う奉仕部門の力を結集して、国際的に力を発揮、そして、ここに海南、海草での存在感をアピールできる事業が出来たらと思い、元来、ロータリーの奉仕、特に社会奉仕は単年度事業があるべき姿なので、その辺りも含めて考えて頂きたいと思

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深められるか
- ④ みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)
電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：谷脇 良樹 幹事：上野山 雅也 SAA：三木 正博

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp



ロータリーの第二の標語「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の基となった演説をロータリー大会で行ったアーサー・フレデリック・シェルドン。

ポートランドでのロータリー大会は、もう一つの標語「超私の奉仕」が誕生するきっかけともなりました。大会中にコロンビア川でボート乗りを楽しんでいた米国ミネソタ州ミネアポリス・ロータリークラブの会長、ベン・コリンズは、シアトルのロータリアン、J.E.ピンカムとロータリークラブを組織するのにふさわしい方法について話し合っていました。その中でコリンズは、自分のクラブで採用していた理念「無私の奉仕 (Service, Not Self)」を紹介しました。ピンカムは、同じボートに乗っていたポール P.ハリスを呼んで会話を続けました。ハリスから依頼されコリンズは大会で演説を行い、この文言「無私の奉仕」が熱烈に歓迎されたのです。

この2つの標語は、1950年にデトロイトで開催された RI 国際大会で、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (He Profits Most Who Serves Best)」と「超私の奉仕 (Service Above Self)」に修正され、ロータリーの公式標語として正式に承認されました。1989年の規定審議会では、「超私の奉仕」がロータリーの第一標語として採択されました。これは、この言葉が利己的でないボランティア奉仕の哲学を最もよく言い表しているとの理由からです。一方、「He Profits Most Who Serves Best」は、2004年規定審議会で「They Profit Most Who Serve Best」に修正され、さらに2010年規定審議会で現在の標語「One Profits Most Who Serves Best」となりました。

未来の夢試験段階が始まる

整理統合された新しい補助金構成を試行する3年間の未来の夢試験段階がいよいよ始まりました。

2009年6月に数百の申請地区の中から選ばれた100地区が、7月1日から正式に試験段階に入りました。これら試験地区は、今後3年間、財団の新しい補助金モデルの改善や修正を行っていくため、この補助金モデルを試験的に導入します。2013年7月からは、全地区がこの補助金モデルを導入することになります。「未来の夢計画を通じて、地域社会、そして世界に、これまでよりも効果的に奉仕していけると期待しています」モンテリオールで開かれた2010年 RI 国際大会において、グレン E. エステス・シニア2009-10年度財団管理委員長はこう語りました。「私たちの持つリソースのすべてを最大限に生かしながら、平和を妨げているさまざまな課題に取り組み、それらを一つずつ解決していくことができるでしょう」国際大会中に開かれた未来の夢ネットワークづくり

のセッションに参加した第1120地区（英国）の元ガバナー、ジェレミー・ボイジーさんは、次のように述べています。「より規模の大きいプロジェクトに力を結集することで、さらに多大な成果を挙げ、持続可能なプロジェクトを行うことができるでしょう。これまで、私たちは財団とともに多くの活動を行ってきましたが、この新モデルによって、さらに財団が利用しやすくなるはずです」

試験地区のグループは、ロータリー世界の構造を可能な限り正確に反映するよう、慎重で厳重な審査を経て選ばれました。これら100地区は、試験段階に3年間参加し続けることを約束し、試験段階に先立って3年間の任期を務めるロータリー財団委員長を任命することが義務づけられました。さらに、試験地区のガバナー・エレクトと財団委員長は、2010年国際協議会において特別研修を受けました。

未来の夢計画の下では、2種類の補助金が提供されます。年に1度、DDF（地区財団活動資金）の50パーセントまでを地区が一括で申請できる新地区補助金は、差し迫ったニーズに迅速に応える柔軟性を備えているほか、クラブが計画する地元地域や海外のプロジェクトに利用できます。試験地区は、試験段階に参加しない地区と協力して行うプロジェクトにも、新地区補助金を活用することができます。一方、グローバル補助金は、1つまたは複数の重点分野と関連する比較的規模の大きい持続可能な活動を支援します。クラブと地区は、独自にグローバル補助金プロジェクトを立案できるほか、財団と協力組織が協同で開発したパッケージ・グラントの活動を実施することもできます。



未来の夢試験段階における新地区補助金の第一号は、タイにある学校の生徒たちにコンピュータを寄贈するプロジェクトなど、さまざまな活動を支援する予定です。試験段階は7月1日より開始されます。写真提供：第3330地区

クラブと地区が独自に立案する

グローバル補助金

クラブと地区は、地区財団活動資金（DDF）あるいは現金を拠出し、財団からの上乗せ補助金を受領して、グローバル補助金活動の資金を調達することができます。グローバル補助金は、2つのクラブまたは地区が提唱したもので、施国と援助国の提唱者は、未来の夢計画の試験地区である必要があります。協同提唱者の双方が、すべてのグローバル補助金活動の計画と実施に積極的にかかわること。これには、補助金活動の全段階において双方が分担する責務に関するコミュニケーションと計画も含まれます。